



第2回 不登校児童生徒のための 教育機会確保に係る検討会議

ひとつでも多くの笑顔のために

令和5年11月 北九州市教育委員会



会議次第 I

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について
 - (2) 児童生徒及び保護者へのアンケート調査結果
 - (3) アンケート結果から見える「軸に据えるべき取り組み」
 - (4) 学びの場・居場所づくりの取組事例紹介
- 3 事務連絡

1 開 会

2 議 事

(1) 令和4年度「問題行動等調査」について

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」

- 調査主体： 文部科学省（初等中等教育局児童生徒課）
- 公表日： 令和5年10月4日（水）
- 主な内容： 小・中学校における不登校児童生徒数（約29万9千人）
うち、学校内外の機関等で指導・相談等を受けていない児童生徒数
（約11万4千人）（約38%）

いずれも**過去最多**

（注釈）

学校外の関係機関とは、教育支援センター（教育支援室）、教育委員会の機関（不登校支援センター・特相センター）、児童相談所、福祉事務所（子ども家庭相談コーナー）、保健所、精神保健福祉センター、病院・診療所、民間団体、民間施設（フリースクール）、その他機関（アウトリーチ等）を指す。

学校内の関係機関とは、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を指す。

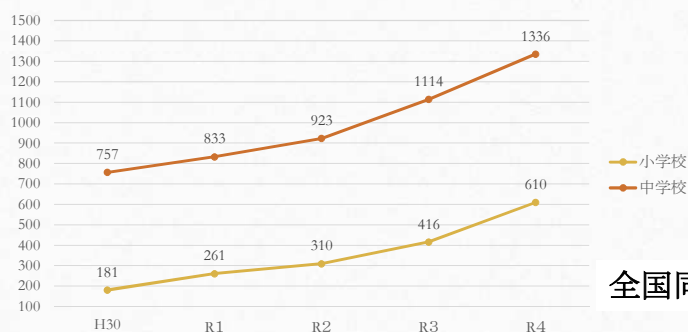
※担任や学年職員、管理職等の関わりはカウントされない

2 議 事

(1)令和4年度「問題行動調査」について

北九州市では...

不登校児童生徒の推移（過去5年間）



全国同様に過去最多

2 議 事

(1)令和4年度「問題行動等調査」について

北九州市の状況

- 全国と同様に増加傾向
- 小学校**610人** 中学校**1,336人** 計**1,946人** 前年より**416人増加**
- 令和3年と比較すると、**1.3倍**
- 学校内外の機関等で指導・相談を受けていない児童生徒数**440人**
(不登校児童生徒数の約23% 北九州市教委調べ)

2 議事

(1)令和4年度「問題行動等調査」について

【考察】

- 長期化するコロナ禍の影響により、生活リズムが崩れやすい状況が続いたことや、学校生活において様々な制限がある中で交友関係を築くことが難しかったことなど、登校する意欲が湧きにくい状況にあったことも要因ではないかと考える。

2 議事

(1)令和4年度「問題行動等調査」について

不登校・いじめ緊急対策パッケージ(R5.10.17)

不登校緊急対策

- ① 不登校の児童生徒全ての学びの場の確保
- ② 心の小さなSOSの早期発見
- ③ 情報発信の強化(文部科学省の取組)

2 議 事

(1)令和4年度「問題行動等調査」について

不登校・いじめ緊急対策パッケージへの北九州市の対応状況

① 不登校の児童生徒全ての学びの場の確保

ステップアップルーム：R5全中学に整備完了見込み

② 心の小さなSOSの早期発見

1人1台端末での「心の健康観察」 ⇒ 研究中

課題を抱える学校へのSC・SSWの配置充実 ⇒ 順次充実中

③ 情報発信の強化 ⇒ 市側の準備完了

2 議 事

(2)アンケート調査結果について

「学びの場と居場所づくりのアンケート」調査概要

- 対 象 者： 令和5年度に入り、教室以外の場所に通ったことのある小4～中3の児童生徒とその保護者
- 調査期間： 令和5年10月4日(水)～10月31日(火)
- 依頼方法： 「教室以外の場所」の管理者等からチラシを配布し依頼
- 回答方法： 1人1台端末や個人のスマートフォン等から回答

⇒詳細は別紙

2 議 事

(3)「軸に据えるべき取組」について

第一回会議：教育委員会が考える「ゴール」

原因を探るよりも、その子にあう学び・居場所の選択肢を増やす

アンケート結果から見える「2つの柱」

- ① 今通えている場所の居心地向上
- ② 新たな選択肢を増やす

2 議 事

(3)「軸に据えるべき取組」について

① 今通えている場所の居心地向上

・学校(教室) ・学校(ステップアップルームや保健室) ・部活

学校での取組

・教育支援室 ・未来へのとびらオンライン教育支援室

学校外での取組(教育委員会)

・フリースクール ・放課後等デイサービス ・習い事 ・自宅 など

民間・地域・家庭での取組

2 議事

(3)「軸に据えるべき取組」について

② 新たな選択肢を増やす

・学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)

在籍校以外を求める児童生徒

・市民センター ・図書館 など

平日の日中に子どもがいていい場所

・その他 子どもを叱る声が聞こえない場所

自然があり、静かに過ごせる場所 など

2 議事

(4)学びの場・居場所づくりの事例

① 学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)

② 校外ステップアップルーム「ぼってりー」(企救中学校・若園市民C)

③ フリースクール、放課後等デイサービス、習い事 など

2 議 事

(4) 学びの場・居場所づくりの事例

① 学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)

令和5年度現在 **全国に24校**(公立14校 私立10校) 各地で検討中
＜岐阜市立草潤(そうじゅん)中学校＞ 令和3年4月開校

全校生徒40名程度 市内全域から通学可 教職員27名(SC等含む)

「全ての子どもたちにとって充実した教育機会の確保を目指す。不登校を経験した生徒のありのままを受け入れ、個に応じたケアや学習環境の中で心身の安定を取り戻しつつ、新たな自分の可能性を見出す。」

校外ステップアップルーム

「ばってりー」(企救中学校・若園市民C)の取組

- 場所 若園市民センター(小倉南区)
- 時間 10:00~14:00 ※ 児童生徒の実態に合わせて実施
- 指導員 企救中学校区職員(学校支援講師、児童生徒支援加配、専任生徒指導)、大学生及び地域ボランティア
- 大学生ボランティア数 約40名 (R5. 5/19現在)
- 「ばってりー」を利用している児童生徒数 (合計 16名)
 - 中学生(10名) : 1年(7名)、2年(1名)、3年(2名)
 - 小学校(6名) : 6年(2名)、5年(3名)、3年(1名)
- 活動内容
 - ・ 「アイスブレイク」活動
 - ・ 折り紙などを活用した制作活動や講座への参加など
 - ・ 昼食作りを中心とした「食育」活動、「掃除」活動
 - ・ 個別学習支援、オンライン授業受講支援

校外ステップアップルーム



「ばってりー」(企救中学校・若園市民C)の活動状況

【オンライン授業】

【大学生ボランティアによる学習支援】

【個別学習】



【集団学習】



【集団活動】



2 議事

(4) 学びの場・居場所づくりの事例

③ フリースクール、放課後等デイサービス、習い事(塾) など

令和5年度 登校扱いとなっている児童生徒数(9月末時点)

フリースクール	小学生	中学生
児童生徒数	45人	20人
校数	24校	17校
放課後等デイサービス	小学生	中学生
児童生徒数	24人	25人
校数	17校	15校

3 事務連絡

- 第三回会議日程案
- 不登校経験者へのインタビュー進捗状況
- 議事録について
- 追加のご意見があれば

第2回 不登校児童生徒のための 教育機会確保に係る検討会議

ひとつでも多くの笑顔のために

令和5年11月 北九州市教育委員会



ありがとうございました